

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

※履修モデルは最低取得単位数

○ 履修モデル（平成30年度入学生）

◇ 幼児教育学科(保育士・幼稚園教諭二種免許状を取得する場合)

		1 年 次						
		必 修 科 目				選 択 科 目		
る教養に 教育に 科目に 関す 目す	英語 I	2					生活と環境	2
	体育実技	2					総合演習	2
専 門 に 関 す る 教 育 科 目	音楽 I	3	保育課程論	2	保育原理	2		
	図画工作	2	保育内容総論	1	保育者論	2		
	幼児体育	2	保育内容(人間関係)	2	子どもの保健 I	4		
	国語	2	保育内容(環境)	2	子どもの食と栄養	2		
	教職総論	2	保育内容(言葉)	2	乳児保育	2		
	教育原理	2	保育内容(表現)	2	障害児保育	2		
	保育の心理学 I	2	保育の方法	2	保育実習指導 I	2		
	教育心理学	2	情報機器演習	2				
	教育制度	2	社会福祉	2				
	保育課程総論	2	児童家庭福祉	2				



		2 年 次						
		必 修 科 目				選 択 科 目		
る教養に 教育に 科目に 関す 目す	日本国憲法	2						
	保健体育	2						
専 門 に 関 す る 教 育 科 目	保育の心理学 II	1	子どもの保健 II	1			音楽 II	1
	発達心理学	2	家庭支援論	2			臨床心理学	4
	保育内容(健康 A)	1	社会的養護内容	1			児童文化	2
	保育内容(健康 B)	1	保育相談支援	1			保育実習 II	2
	保育指導	2	保育実践演習	2			又は保育実習 III	
	幼児理解の理論及び方法	2	卒業研究	2			保育実習指導 II	1
	幼児教育相談	2					又は保育実習指導 III	
	教職実践演習	2						
	相談援助	1						
	社会的養護	2						



保育実習 I	4	教育実習	5
--------	---	------	---

※1, 2年通年科目

○ 主な科目の概要と目的

<音楽 I>

- ①子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術を学び、豊かな感性を養います。
- ②本学では音楽 I で、ピアノ初心者用のプログラムを組み、楽譜の読み方、リズムの基本を「タッチベル」「カホン」「ボックスフォン」導入により、ピアノ一辺倒ではなく、アンサンブルを通して楽しく学びます。
正しい音程で歌うための子どもたちの生活の中から伝えられてきた「わらべうた」を導入し、赤ちゃんの声域から子どもの発達に無理させることなく歌うことを学びます。
- ③前期は基礎的知識の学習と歌唱および鍵盤楽器の基礎的技術の習得を主として行い、後期はコードネームを中心とした弾き歌いのできるようにし、感性豊かな表現活動ができる力を養います。

<図画工作>

幼児教育においては、心身にわたる望ましい発達と、心豊かな人間性を形成することが大切であり、幼児の創造的な感性を育むために、創造活動を通じて、指導者としての必要な美術的な教養を深めるとともに、実践に役立つための基礎技術の習得を図ります。

<幼児体育>

幼児教育の指導者に必要な体育の教養を深め、幼児教育の実践的展開を支える基礎技能の習得を図るとともに、幼児が楽しんで、体育に興味を持つような軽快なビート感が特徴のエアロビックの内容と、その知識や指導技術を習得し、幼児・少年期の子どもたちにエアロビックを通じて、身体づくりや動きづくりの指導を行う、意欲的で明るい指導者を育成します。

<保育者論>

保育が、教育と養護（養育）、社会の中の営み、多様な総合的な営みなどとしてとらえられた場合の保育に関する考え方を、保育者の立場から学ぶことをねらいとします。具体的には、保育思想、保育史について学習し、保育を行う上での、保育の本質、保育の方法、保育計画などの基本的事項を学びます。

<子どもの保健 I >

幼稚園教諭や保育士には、乳幼児の生命を守り、健やかな成長を育むことが責務として求められます。そのためには、病気や事故についての知識を得ることは勿論、子どもの心身の発達について正しく理解することも重要であります。本講義ではこれらについて学ぶとともに、子どもの日常生活をとりまく社会（家庭、地域）と幼児教育との関連を理解し、子どもの健康という視点から、自分が職業人として社会に与える影響と役割について考察します。さらに少子化や虐待といった社会問題と自分の日常生活との関わりを認識し、幼児教育のプロとして、各自のスタンスを確立することを目的とします。

